

歯学部附属歯科衛生専門学校
令和7年度自己点検・評価及び学校関係者評価報告書

1 目的

実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえ、その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどについて評価し、その結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者（以下「学外評価者」という）による学校関係者評価を受け、学校として組織的・継続的な改善を図ることにより、教育水準の向上を図ることを目的とする。

2 実施概要

① 自己点検・評価の実施

歯学部附属歯科衛生専門学校（以下「本校という」）において、点検・評価項目を4項目設定した。

本校において、各点検・評価項目について自己点検・評価を行い、その結果について以下の4段階により評価をし、「自己点検・評価及び学校関係者評価票」を作成した。

（A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない）

<点検・評価項目>

| |
|--|
| ① 【重点目標】教育課程及びその内容, 教育方法について定期的に点検・評価し, 改善・向上に向けて取り組んでいるか。 |
| ② 学修の継続に困難を抱える学生（留年者, 退学希望者等）に対し, その実態に応じて対応しているか。 |
| ③ 学生募集活動は適切に行われているか。 |
| ④ 災害に備えた環境が整備されているか。 |

② 学校関係者評価の実施

(1) 学外評価者による評価は, 本校からの提供資料によるほか, 授業, 学校行事等の見学, 校長・教職員及び学生との面談により行った。

(2) 本校から「自己点検・評価及び学校関係者評価票」の各評価項目についての資料等を提示し, 評価結果及び取組状況等を学外評価者に説明した。

(3) 各学外評価者が, 評価結果について「自己点検・評価及び学校関係者評価票」に取りまとめるとともに, 以下の4段階により評価した。

（A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない）

- (4) 学外評価者の互選による代表者は、各学外評価者が記述した「自己点検・評価及び学校関係者評価票」を取りまとめ、「自己点検・評価及び学校関係者評価報告書」にて評価結果（総評）を作成した。

3 学外評価者

① 卒業生

成田 アヤ子（平成9年歯学部附属歯科衛生専門学校卒業生）

② 学校の専門分野における関係団体・関係業界

井上 球代（歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会会長）

③ 地域住民

今村 昭二郎（神田学校歯科医会会長）

4 学校関係者評価協議会開催日時

- ① 第1回 令和7年11月27日（木） 午前10時～午前10時40分
② 第2回 令和7年12月11日（木） 午前9時30分～午前10時30分
③ 第3回 令和7年12月25日（木） 午前10時～午前11時

5 評価結果（総評）

令和6年度施行の新カリキュラムは、順調に進行し、多職種連携や授業評価の活用により教育の質を維持している。現在は、旧体制との比較や歯科衛生士による局所麻酔行為に係る教育、他学部との連携教育などの新たな課題への対応が求められている。今後は、各学年での点検を徹底し、全課程が終了した令和9年度に、全体的なカリキュラムの見直しを行う予定である。

担任制により、インテーカー資格を持つ教員が3年間一貫して学生を多角的に支援し、保護者や日本大学の組織（学生支援センターなど）とも連携した手厚い体制を整えている。課題である入学直後の早期離脱や担任の負担増に対し、学修方法に関しては教科担当者との協力体制を強化する。教職員全体で学修・心身両面のフォローを徹底し、学生の自律を促していく。

令和7年度は、入学定員に達したが、安定的な学生確保が依然として課題である。今後は、点検・評価を徹底し、入試方法の改善を継続する。また、18歳人口の減少を見据え、学校訪問や出張授業といった対外活動に加え、デジタル広報を計画的に展開することで認知度を高め、志願者の更なる拡大と充足を図る。

災害に対する安全対策では、避難場所の周知や防災手引の配布、備蓄品整備など日本大学の支援体制を生かした対策を講じている。課題である安否確認の迅速化や訓練不足に対し、今後はデジタル連絡手段を用いた連絡方法の構築や全教職員・学生を対象とした訓練の強化を図る。また、マニュアルをオンライン公開し、非常時に即座に参照できる環境を整備していく。

以 上